



No. 44
2015 Spring

山南寺
松山
含臨

吹雪に見舞われる冬の厳しきは並大抵ではありません。

『しょうほうげんぞう正法眼蔵』の三分の一を二年半で

そんな時、道元禪師は弟子たちに語りかけます。

想像を絶する厳しい生活

吉峰寺はそれほど大きな寺ではなく、むしろあばら家と呼ばれなくなるような粗末な寺でした。道元禪師ら二行の生活は大変だったようです。華やかな都とは気候や習慣も異なる越前の山奥の生活は、想像を絶する厳しさがありません。

一番の問題は食料の調達でした。そこで頼りにされたのが義介でした。義介は越前の出身であり、知人も多く、生活の困難さも熟知していました。道元禪師は義介を典座に任命されました。道元禪師は中

国で典座の仕事の大切さを思い知らされていました。義介もそのことを知っており、自分の体を惜しまず一生懸命に取り組みました。水を汲むにも毎日、九百メートルの急坂を、桶をかついで何度も上り下りしなければなりません。また夏から秋にかけては都より過ごしやすい面もありました。しかし

静寂と厳しさにあふれたこの地で、道元禪師は弟子とともに修行に打ち込みました。吉峰寺と禪師峰寺の間を往復しながら思索を深め、説法を行い、弟子の教化に全身全霊を傾けました。この一年半のうち

に、『正法眼蔵』九十五巻のうち三分の一が説示されたのです。寛元三年(三四五)には、波多野義重や在俗の弟子覚念らによつて永平寺が建立されるのですが、その話は次回といたしまし

特集

道元禪師ものがたり

19



布教活動から、思索と弟子の教化へ
道元禪師の軸足は移っていきます。

十日以上かかって越前に

寛元元年(二四三)七月十七日、道元禪師は京都を出発して越前、現在の福井県へ向かいました。興聖寺を開いたのが天福元年(二二三三)、京都での布教活動に努めはじめてちょうど十年が経っていました。

懐契以下の門弟たちと一緒に深い山道に分け入り、いくつも峠を越えて越前をめざしました。十日以上かかって、ようやく越前に入りました。まず波著寺に宿

泊しました。ここは奈良の多武峰を追われた日本達磨宗の義介、義演らが拠点としていた懐かしい寺です。

やがて庇護者の波多野義重の領地、志比の庄にある吉峰寺に入りました。都から道元禪師が来られたという噂を聞いた禪師峰寺に招かれ、越前に入つて最初の説法を行いました。禪師峰寺は当時一大

宗教都市を築いていた白山平泉寺の修行道場で、吉峰寺から東南十五キロの位置にありました。

彼岸会のひと日 仏陀の弟子となる

長谷部昭子

三月二十四日の彼岸会には

ご家族そろってお参りください



「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、昼と夜の長さが同じになる春分の日を中心として、その前後三日ずつをあわせた二週間を「お彼岸」と呼びます。今年は、十八日から二十四日までの七日間です。この行事は平安時代の初め朝廷で行われ、やがて武士にも広まり、江戸時代には庶民に普及していききました。春分の日には太陽が真西に沈みます。西方浄土を拜むのに最適な時期として定着したようです。

煩惱にあふれたこの世「此岸」に対して、「彼岸」は一切の執着から離れた安らかなあの世のこと。お彼岸は、亡くなった方のご冥福を祈る追善供養の時でもあります。お彼岸には各地のお寺で法要が営まれ、先祖供養が行われます。臨南寺では、三月二十日に彼岸会

写経会を開き、二十四日には午後一時から彼岸会施食会を修行いたします。彼岸会施食会では、亡くなられた方の冥福を祈ってお経を上げ、先祖供養の法要を行います。ご家族そろって彼岸会施食会に参加し、ご先祖のお墓に参り、お仏壇に手を合わせましょう。当日ご都合の悪い方は、不参にての意向をお受けいたしますのでお問い合わせください。



どうぞ彼岸会施食会にお参りください

寺景 百景



歴代住職と

ご開基さんのお墓

本堂の裏手に歴代住職をお祀りした墓所があります。

臨南寺は、正保二年（二六四五）、萬安英種禪師をご開山、天草代官の鈴木三郎九郎重成公をご開基として創建されました。今からちょうど三百七十年前になります。その間、現在の大澤正道住職まで二十三名の住職により、臨南寺の法灯が継承されてきました。なかには大本山總持寺で要職を務められた方や宇治の興聖寺の住職になられた方もいます。

- 開山 萬安英種
- 二世中興 梅峯竺信
- 三世 珪洲惟璠
- 四世 藏雲慧密
- 五世 一先祖道
- 六世 偃溪智文
- 七世 寶山自珍
- 八世 吉州實踐



ご開基の鈴木重成公ご夫妻のお墓



歴代住職をお祀りした墓所

- 九世 慈天大忍
 - 八世 嶺南老梅
 - 七世 大桂爲辨
 - 六世 日穀東溟
 - 五世 守巖初一
 - 四世 隆岳智紹
 - 三世 德峯祐山
 - 二世 德應禪海
 - 一世 眞岩俊如
 - 十七世再中興 洞界増仙
 - 十八世 高天秀嶽
 - 十九世 南岳泰洲
 - 二十世 雲外秀峰
 - 二十一世 朴洲剛毅
 - 二十二世重興
- 以上の歴代住職とともに、昨年、ご開基の鈴木重成公ご夫妻のお墓を建立し、開眼法要を執り行いました。皆さんも法要や墓参で臨南寺に來られたときは、この歴代住職とご開基さんのお墓にもぜひお参りください。

住職
日誌

今年は二祖・峨山禪師の 六五〇回大遠忌にあたります

今年、大本山總持寺の二祖である峨山韶碩禪師が亡くなられて六百五十年になります。

道元禪師が伝えられた叢山禪師に總持寺を開かれた瑩山禪師に受け継がれ、さらに峨山禪師に相承されました。

峨山禪師は總持寺の二祖として、全国に「五哲」あるいは「二十五哲」と呼ばれる優れた弟子を育成されました。そして、その門下たちが協力して總持寺を発展させられるよう、住職を定期



峨山韶碩禪師頂相（總持寺祖院蔵）



大本山總持寺大祖堂

間で交代させる「輪住制」を確立されました。七百年も前に「人材育成」の大切さを思い、「教団の将来ビジョン」を描かれたことに驚きます。

曹洞宗が、永平寺、總持寺の両本山をはじめ、およそ二万五千の寺院と二万五千人の僧侶、そして数百万人を超える檀信徒を擁する国内最大の教団になったのも、峨山禪師の功績が大き



臨南寺 住職
大澤正道

いといわれています。

大本山總持寺では、今年十月七日から二十日までの十四日間、「二祖・峨山韶碩禪師六五〇回大遠忌法要」を厳修する運びとなりました。私も十二日に導師を務めさせていただくことに決まりました。大変名誉なことでも感慨もひとしおです。檀信徒の皆様も二緒に本山参拝していただきますようお願いしております。できるだけ多くの皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



相承のロゴとマーク

臨南寺行事予定(三〜五月)

○ 彼岸会写経会
*三月二十日

午前十時〜午後三時(受付は随時)

亡くなられた方やご先祖を偲びながら、一文字一文字心を込めて、お写経なさいませんか? 大本山總持寺に納経させていただきます。(納経料千円)

○ 彼岸会お墓經
*三月二十日・二十一日

午前十時〜午後三時(受付は随時)

どちらかご都合の良い日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。(回向料二万円)

○ 春季彼岸会施食会
*三月二十四日 本堂にて

午後二時〜午後三時(受付は 時三十分まで)

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸は、先祖様に感謝する大事な期間。ご先祖様を偲び今あることを感謝いたしましょう。ご家族そろってお越しください。(回向料二万円)

○ 釈尊降誕会(花祭り)
*四月八日 午前九時〜 本堂にて

お釈迦様のご誕生を祝う法会です。本堂前に安置した誕生仏様に甘茶を注いでお祝いします。ご参拝の皆様にも甘茶が振る舞われます。

○ マトリ合同法要
*五月十日 午後一時〜

マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行います。本堂で法話を聞いた後、マトリで亡くなられた方のご冥福を祈ります。

無病息災・家内安全を願って

弁財天祈祷会



一月十五日、新しい年を迎えて弁財天祈祷会を修しました。厄払い福を招くこの法要、よい一年になりますようお願いを込めて多くの方がお参りになりました。法要のあとお一人おひとりの厄払いが行われ、破魔矢が授けられ甘酒が振る舞われました。



皆様の無病息災、家内安全を祈願

仏道修行に励む決意新たに

成道会法要

昨年十二月八日、成道会の法要を営みました。六年間の苦行も実らぬまま修行の山から下りたお釈迦様。菩提樹の下で結跏趺坐の禅定に入り、一週間後の朝悟りを開かれました。その故事に思いをさせ、仏道修行の決意を新たにしました。



「釈迦出山図」をお祀りして

お釈迦様に感謝を捧げて

釈尊涅槃会

二月十五日はお釈迦様がお亡くなりになった日です。涅槃図を須弥壇にお祀りし、供物をささげ、お経をお唱えいたしました。法要のあと五色の涅槃だんごを全員でいただきました。



お釈迦様のお命日に供養と感謝を



墓苑をご利用の皆様へ

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレトーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーは水に溶けません。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

編集後記

中東や北アフリカでイスラム教の原理主義者たちが暴れています。日本人にも火の粉が降ってきました。やられたらやり返すでは、報復の連鎖は果てなく、戦火は拡大するばかり。ドラマの言われるように「人類みな兄弟」といかぬものでしょうか?(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日

午前六時半～ 本堂にて

*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日

午前十時～午後三時

写経料・千円 椋伽林二階にて

*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ～っと」44号

平成27年3月

編集・発行：椋伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com